

科目名	がん看護学特論 I Topics in Health and Illness Nursing I
授業形態	講義（レクチャーと討論）
標準履修年次	1年次
実施学期・曜時間等	春BC学期 金曜5・6時限
実施場所	共同利用棟B 205
単位数	2単位
担当教員名	水野道代 Mizuno Michiyo 山下美智代 Yamashita Michiyo 牟田理恵子 Muta Rieko
ティーチングフェロー(TF)・ ティーチングアシスタント(TA)	
オフィスアワー等	随時(メールで予定を確認の上訪問すること)
授業の到達目標 (学習成果)	1. がん患者と家族の保健行動を理解するために必要な看護理論・基本概念について説明できる。 2. がん看護で重要な看護理論・基本概念の具体的な活用方法について、最新の看護研究論文を題材に説明することができる。 3. 自らの発言内容に対する質問とコメントを理解し、討論の内容をがん看護の質の向上に反映させるための方向性を提示できる。 4. 他の学生の発言内容およびその意義と欠点を理解し、がん看護の質の向上につながる質問や討論を行う。 5. 看護理論・基本概念に基づいた看護実践の具体的なメリットと段階的な目標設定について説明できる。
他の授業科目との関連	
履修条件	履修要件はないが、※1～4はがん臨床指導者プログラムのeラーニングによる授業であるため、視聴に必要な手続きをとること。
授業概要	がん患者の保健行動を理解するために必要な看護理論・基本概念をテーマとして討論を行い、専門的ながん看護を行っていく上で基盤となる主要理論ならびにその活用について探求する。
キーワード	看護理論 Nursing theory, 健康概念 Health concept, 概念 theoretical concept
授業計画	1 (5/24) ストレス-コーピング理論の理解①※1 2 (5/24) ストレス-コーピング理論の理解②※2 ラザルスのコーピング理論を基に、がん患者に特徴的な心理的ストレスと認知的評価に影響要因について深く理解する。(山下) 3 (5/31) ストレス-コーピング理論の活用法① 4 (5/31) ストレス-コーピング理論の活用法② 看護研究論文を題材に、ストレス-コーピング理論を用いた、がん患者と家族の保健行動を理解する方法について探求する。(山下・牟田) 5 (6/7) ソーシャルサポートの理解① 6 (6/7) ソーシャルサポートの理解② ソーシャルサポートの概念を理解し、がん患者と家族におけるソーシャルサポートの機能について検討する。(山下) 7 (6/14) ソーシャルサポートの活用法① 8 (6/14) ソーシャルサポートの活用法② 看護研究論文を題材に、ソーシャルサポートの概念を活用した、がん患者と家族への看護支援を探求する。(山下) 9 (6/21) 自己概念の理解① 10 (6/21) 自己概念の理解② 著書や文献に基づき作成した資料を基に自己概念について解説した後、討議によって概念理解を深める。(水野) 11 (6/28) 自己概念の活用法① 12 (6/28) 自己概念の活用法② がん患者の自己概念を扱う研究論文を紹介した後、討議により自己概念を考慮した対象理解の方法について探求する。(水野)

	<p>13 (7/5)QOL概念の理解と活用法※3 14 (7/5)QOL概念を用いた事例・研究の展開 I ※3 講義により、QOL概念について理解するとともに、QOLの視点からがん患者を理解する方法について学ぶ。(牟田)</p> <p>15 (7/12)QOL概念を用いた事例・研究の展開 II 16 (7/12)QOL概念を用いた事例・研究の展開 III がん患者のQOLに関する研究論文を基に、臨床でのQOL概念の具体的活用方法について探究する。(牟田)</p> <p>17 (7/26)社会学習理論の理解①※4 18 (7/26)社会学習理論の理解②※4 討議により「保健行動理論の理解と活用」についての理解を深める。(水野)</p> <p>19 (8/2)社会学習理論の活用法① 20 (8/2)社会学習理論の活用法② 社会学習理論を用いた研究論文(看護介入があるものに限る)をクリティークして発表し、討議する。(水野)</p>
学修時間の割り当て及び授業外における学修方法	講義(%) 自らの主要理論の解釈を行い、教員や学生同士でその活用方法の討論を常に行い、自らの創造力、自立力を向上させる。
成績評価方法	行動目標の1と2を指導に従って大旨できればC以上(12-13点)と判断する。積極的に3、4も行っていると判断されればB以上(14-15点)と判定する。1～4については、発表と討論状況および各授業での作成資料を元に、理解度を判定する。行動目標の1～4について優れていると判断され、5を指導に従って大旨できると判断されればA以上(16-20点)と判定する。5種類の理論・概念に関する授業コマのグループ毎に20点を配点し、その合計により評点する。
教材・参考文献・配布資料等	(教科書)指定しない。(参考書)随時提示する。
その他(受講生にのぞむことや受講上の注意点等)	わからないことは、その場で質問し解決すること。徹底的に科学的、論理的、厳密な議論を行うこと。